

一般講演概要

1. 「地表面環境の違いによる気温およびWBGTの比較」

深澤 拓・福岡 義隆 (立正大学大学院 地球環境科学研究科)

概要：異なる地表面環境での気温、WBGTの比較は先行研究でも成されているが、周囲に何も無い運動場のような場所での比較が多くない。本研究ではそのような場所での観測比較を行った。

2. 「気象庁観測データを用いたWBGT観測値の推定精度」

登内 道彦 (財団法人気象業務支援センター)

概要：熱中症の発生と深い関係があるWBGTは、黒球温度が気象庁の観測項目に入っていないため、常時観測が限られている。そこで、過去の観測データを用いて、気象庁の観測項目からWBGTを推定した場合の推定精度を検討する。

3. 「都市の暑熱環境に与える降水の影響評価」

石井 伸幸 (株式会社 ライフビジネスウェザー)

概要：近年、都市ヒートアイランドに代表される都市の暑熱環境の悪化は、熱中症搬送者数の増加など、さまざまな側面から問題とされ、その実態解明や屋上緑化、保水性塗装、撒水などの緩和対策が求められている。本研究では、自然の暑熱環境緩和策でもある降水が、都市の代表的な表面である建築物屋上面に与える影響について評価を行った。降水が都市の暑熱環境に与える影響を評価することは、保水性塗装や人工撒水の効果検証をするうえでも重要となる。

4. 「スギ花粉症有病率の地域差について」

村山 貢司 (財団法人気象業務支援センター)

概要【目的】：我が国におけるスギ花粉症の有病率は馬場の2008年の調査により平均26.5%とされているが各地域の有病率には大きな差が存在する。本研究では、花粉数、飛散期間、大気汚染、食物など花粉症の有病率に関与すると考えられる因子について解析を行った。

5. 「生活情報の有用性と問題点」

藤田 友香 (株式会社 ライフビジネスウェザー)

概要：天気予報とともに発表されている生活情報は、服装・花粉・肌荒れ・風邪ひきなど、たくさんの種類がある。この生活情報が、受信する視聴者にどのように役立っているのか紹介する。また、今後さらに生活情報の発展するために、解決すべき課題や問題点についても、情報を送信する側から見た観点を含めて報告する。

6. 「夏のオフィス空調温度に関する一考察 ―クールビズに関するサラリーマンの意識調査より―」

田村 照子・李 恩眞 (文化女子大学)

概要：

7. 「気圧低下暴露がラットの抑うつ状態に与える影響」

佐藤 純・深谷 佳乃子・溝口 博之

(名古屋大学環境医学研究所 近未来環境シミュレーションセンター)

概要：天候の変化がうつ病や気分障害を悪化させるリスク要因であることが知られている。そこで本研究では、強制水泳試験によって抑うつ状態を形成したラットを人工低気圧環境に曝露し、抑うつ状態の形成と維持に与える影響を調べた。

8. 「郡上市八幡における水面を考慮した市街地の熱環境調査」

石田 勝美・堀越 哲美 (名古屋工業大学)

概要：郡上八幡市内の市街地水面としての河川・側溝がある場合の熱環境形成についての調査を行った報告である。

9. 「赤外線熱画像から見る壁面緑化の表面温度低減効果について」

吉廣 祥子・堀越 哲美・渡邊 慎一 (名古屋工業大学)

概要：名古屋市内の壁面緑化建物の赤外線熱画像と気温調査による、壁面の表面温度低減効果を示した報告である。

10. 「名古屋都心部における大規模緑地のクールアイランドとしての効果に関する実測調査」

OKELLO PHILIP OCHIENG・堀越 哲美 (名古屋工業大学)

概要：名古屋市の都心部にある名城公園周辺の気候観測を行い、緑地におけるクールアイランドの形成について調査した。

11. 「静岡県御前崎市における屋敷森の分布とその防風効果に関する調査」

本杉 祐二・堀越 哲美 (名古屋工業大学)

概要：御前崎市の1地区を選定し、屋敷森の分布と形態を悉皆調査し、あわせて気候観測によりその防風効果を探った報告である。